

# 日本山岳会蔵資料紹介 No.13

[資産番号] 00051  
 [資料名] 冠松次郎  
 [部門名] 写真  
 [寄贈者] 中村伊登子・児玉信子・富樫ヨーコ  
 [受入日] 1998年



冠松次郎

## 冠松次郎略歴 (柴木猪之吉のスケッチより)

1883(明治16)年2月 東京市本郷区本郷にて出生  
 1909(明治42)年12月 日本山岳会に入会(紹介者: 辻村伊助・)  
 1917(大正6)年7月 剣岳より北西にのびる現在の早月尾根を初登攀  
 1925(大正14)年8月 黒部渓谷下廊下完全溯行  
 1930(昭和5)年8月 鹿島槍ヶ岳東尾根を初登攀  
 1970(昭和45)年7月 東京都北区にて逝去(享年87)



大正8年8月聖岳行の際に遠山川で撮った初めての写真



大正14年8月黒部峡谷下廊下完溯の際に撮った写真

日本山岳会史の中で第2期に活躍した故冠松次郎名誉会員(会員番号237番)が、1919(大正8)年以降山行をするたびに撮りためてきたスチール写真の原板が、四男故冠郁夫氏の自宅から発見されてから17年が経った。主に大判のガラス乾板からなり、専用の3つの木箱に収納されている約750点にも及ぶ写真原板はご遺族から当会に1998年に寄贈された。その後、当会から保存環境に優れた東京都写真美術館へ寄託されることとなり現在に至っている。

この原板により、冠氏の名を一躍高めた大正末期の黒部渓谷下廊下や、昭和初期までに登った北及び南アルプス等において撮影された当時の山岳景観は、今もなお鮮明に再現することができる。原板の大半は冠氏の30冊にも及ぶ著書の図版に使用されたもので、被写体が放つ魅力がそうさせているのか、亡くなってから40年以上経過しているにもかかわらず、今なお資料借用や写真掲載などの依頼が絶えない。

生誕130年を迎えた昨年度末、原板寄託先の東京都写真美術館と逝去地である北区飛鳥山博物館では、冠氏の写真資料を核とした企画展が催されたが、同資料の利用・活用は今後も継続されるであろう。保管の任にあたっている東京都写真美術館に感謝しつつ、日本山岳史を説明するうえで欠くことのできない同資料を、当会の貴重な財産として将来に向けて大切に守っていききたい。

なお、日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→資料映像委員会へアクセスすると、「会報ページそのもの」を「拡大およびカラー」で見ることができます。活用ください。また、公開資料に関する情報・ご意見・ご教示など、次までお寄せください。✉[jacshiryoy102@jac.or.jp](mailto:jacshiryoy102@jac.or.jp) (資料映像委員会)

## ◆編集後記◆

●2016年から施行される「山の日は、8月11日。今年も、地域によつては台風一過となりそう(本紙は校了のまっただなか)。しかしそれまで多くの雨と強い風をもたらし、災害もあった。登山の計画変更や中止を余儀なくされた人も少なからず。自然にはとても逆らえないし、また逆らうべき相手でもない。そんな日は思い切つて別の楽しみを見つけた。

●出発間際に急ぎよ巻頭記事を書いてくれたのは、学生部女子ムスタン登山隊の井上由樹子隊長。フェイスブックも開設し、準備の様子が写真付きで報告されています。「ムスタン登山隊」で検索してください。日付は迫っていますが、壮行会や寄付金募集のお知らせもあります。(柏澄子)

## 日本山岳会会報 山 831号

2014年(平成26年)8月20日発行  
 発行所 公益社団法人日本山岳会  
 〒102-0081  
 東京都千代田区四番町5-4  
 サンピューハイツ四番町  
 TEL 東京(03)3261-4433  
 FAX 東京(03)3261-4441  
 発行者 日本山岳会会長 森 武昭  
 編集人 柏 澄子  
 E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp  
 印刷 株式会社 双陽社